

田無神社 龍神池 調査・管理報告書

活動日	2019年7月24日	天候	晴	活動時間	9:30～12:00
作業者	久保田 潤一、金本 敦志			報告者	久保田 潤一
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
内容					
<p>【作業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍神池の写真撮影 ・パックテストによる水質調査 ・生物調査 ・外来種の駆除 ・藻や枯れ葉の除去 ・伸びすぎた植物の整理 <p>【水質調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COD、リン酸態リン、亜硝酸態窒素を測定した。すべて前回と同様の数値であった。下記、詳細。 ・CODの値は7～8であった。これは国民の日常生活において不快感を生じない限度とされる値をほぼ同じである。それほどきれいではないが、問題はない値といえる。 ・リン酸態リンは、0.02～0.05で、比較的きれいな水の値であった。 ・亜硝酸態窒素は0.005以下と非常に低く、きれいな水の値であった。 <p>【生物調査の詳細】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープ創出時に導入した生物も含め、生息・生育状況の調査を実施。ただし植物については水草のみに限定した。 ・大小様々、多数のミナミメダカを確認した。繁殖が成功している。 ・前回調査で多数確認したボウフラ(蚊の幼虫)がいなくなっていた。メダカが捕食していると見られる。 ・トウキョウダルマガエルの幼生を確認した。府中の水田から導入されたものである。 ・ニホンアマガエルの幼生・幼体を確認した。府中の水田から導入されたものである。アマガエルは変態・上陸後は周辺の草地や樹林地で生活するため、今後は神社内の各所に分散すると考えられる。 ・オオシオカラトンボの成虫及び産卵を初めて確認した。 ・クロイトトンボの成虫及び産卵を初めて確認した。 ・コセアカアメンボの捕食シーンを観察した ・車軸藻類のシャジクモ(環境省レッドリストで絶滅危惧II類)を初めて確認した。府中の水田から導入した土壌から発芽したものである。 ・コナギの芽生えを確認することができた。 ・ヤブランが開花していた。花にホソヒラタアブとハナバチの一種が訪花していた。 <p>【ビオトープの管理作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藻や枯れ葉の除去、伸びすぎた植物の整理などを行い、見栄えを整えた。 ・水中に広く発生していた藻を除去した。ただし、藻の一部にクロイトトンボが産卵していたため、その部分は残した。 ・ツワブキとウキヤガラの枯れた部分を除去した。 ・広がりすぎたミゾソバをトリミングした。 ・拡散したイトモの一部を除去した。 ・倒れていたタマガヤツリに支柱を立てた。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープ内に植えられたイネの生育があまり良くない。日照が不足していると考えられる。 ・同様に、ウキヤガラの生育も良くない。 					



No. 1

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

ビオトープの全景。



No. 2

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

生物調査の様子。



No. 3

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

大小様々、多数のミナメダカを確認した。繁殖が成功している。



No. 4

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・トウキョウダルマガエルの幼生を確認した。府中の水田から導入されたものである。



No. 5

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・ニホンアマガエルの幼生・幼体を確認した。府中の水田から導入されたものである。



No. 6

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・オオシオカラトンボ成虫のオス。



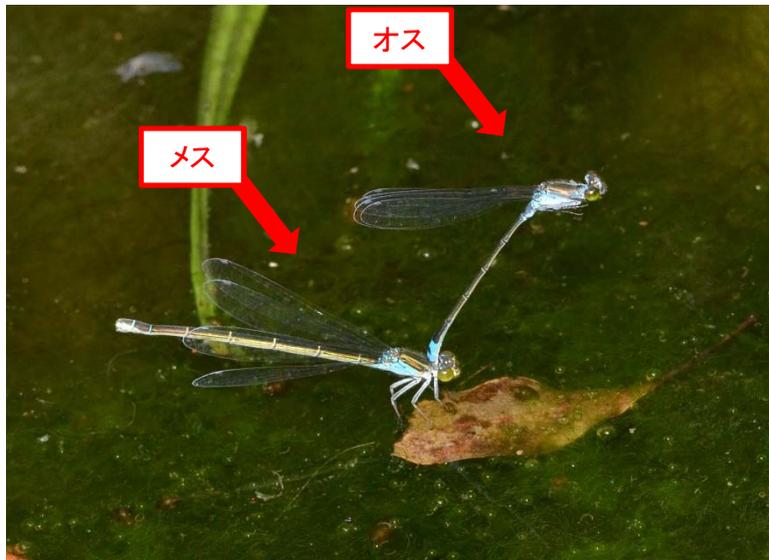
No. 7

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・オオシオカラトンボの産卵を初めて確認した。



No. 8

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・連結して水草に産卵するクロイトトンボ。



No. 9

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・水面に落ちた昆虫を捕食するコセアカアメンボ。



No. 10

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・埋土種子から発芽したシャジクモ。環境省レッドリストで絶滅危惧II類の希少種である。



No. 11

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・コナギの芽生え。



No. 12

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・開花したヤブラン。



No. 13

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・ヤブランの花に訪花していたハナバチの仲間。



No. 14

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・藻が繁茂した龍神池。



No. 15

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・藻の除去作業実施後の様子。



No. 16

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・倒れたタマガヤツリ。



No. 17

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・支柱を立ててまとめた様子。



No. 18

撮影日: 2019/7/24

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・ビオトープ管理作業の様子。

	<p>No. 19</p> <p>撮影日: 2019/7/24</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・除去した藻。</p>
	<p>No. 20</p> <p>撮影日: 2019/7/24</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説 ・除去した枯れ葉やトリミングした水草。</p>
	<p>No. 21</p> <p>撮影日: 2019/7/24</p> <p>撮影場所: 田無神社 龍神池</p> <p>解説</p>

田無神社 龍神池 確認生物リスト

分類	種名	レア度 ※別表1	経緯 ※別表2	希少性 ※別表3		外来種	備考	確認記録 ※注		
				環境省	東京都 北多摩			2019/ 5/31	2019/ 7/24	2019/ 秋期
両生類	トウキョウダルマガエル	SR		NT	EN			○		
	ニホンアマガエル	SR			VU			○		
魚類	ミナミメダカ	SR	導入	VU	CR+EN		調査後に神社が繁殖を確認	△	○	
貝類	ヒメタニシ	A	導入					○	○	
	イシマキガイ	A	非意図的導入					○		
	サカマキガイ	外	非意図的導入			○	繁殖を確認	○	○	
昆虫類	コセアカアメンボ	A	自然飛来				繁殖を確認	○	○	
	ナミテントウ	B	自然飛来					○		
	ニホンミツバチ	A	自然飛来					○		
	ハグロトンボ	A	非意図的導入				野川で採取した水草に幼虫が付着していた可能性が高い	○		
	クロイトトンボ	A	自然飛来				繁殖を確認		○	
	オオシオカラトンボ	A	自然飛来				繁殖を確認		○	
	ホソヒラタアブ	B	自然飛来						○	
	ヒトスジシマカ	B	自然飛来				ボウフラ	○		
植物	タマガヤツリ	A	導入					○	○	
	セキショウ	A	導入					○	○	
	コナギ	A	導入						○	
	ヒルムシロ属の一種	SR or R	導入				イトモあるいはツツイトモの可能性が高い	○	○	
	ウキヤガラ	R	導入		NT			○	○	
	ミゾソバ	A	導入					○	○	
	シャジクモ	SR	発芽	VU					○	
	オオカナダモ	外	遺棄・放流			○	重点対策外来種	○		

※確認記録

○: 調査で確認

△: 聞き取り等で確認

別表1 レア度について

カテゴリ	表記	基準	一例
スーパーレア	SR	環境省または東京都のレッドリストVU以上	オオタカ、フクロウ、ニホンカナヘビ
レア	R	環境省または東京都のレッドリストNT、DD、留意種など	アオゲラ、ウグイス、クロカナブン
良	A	武蔵野台地らしさ。雑木林や用水、田畑、湿地等に特化して生息するもの。レアではないがいてほしい生きもの。	ヒメタニシ、アオモンイトトンボ、カブトムシ、アズマヒキガエル
普通	B	普通種。都市や道ばたなどでも見られる生きもの。	オンブバッタ、キタキチョウ、ヒトスジシマカ、スズメ、ハクセキレイ
外来種	外	外来種	ガビチョウ、アメリカザリガニ、アカボシゴマダラ

別表2 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
発芽	ビオトープに導入した土壌から種子が発芽したもの
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの

別表3 希少性の表記について

表記	カテゴリ名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの